

登壇者・参加者プロフィール

●フェスティバル事業／音楽分野

『Music Weeks in TOKYO』合唱指揮者

ロベルト・ガッビアーニ <トリノ王立歌劇場 合唱指揮者>

ルイジ・ケルビーニ音楽院に学びピアノおよび作曲で学位を取得。1990年から2002年、R.ムーティの要請によりミラノ・スカラ座の合唱指揮を務め、委嘱合唱作品の世界初演を含む多くの演奏会を成功に導く。これまでにC.アバド、C.クライバー、L.マゼール等著名な指揮者と仕事を共にし、いずれのマエストロからも絶大な信頼を寄せられている。現在、トリノ王立歌劇場合唱団の合唱指揮者。



●フェスティバル事業・キッズ事業／伝統分野

『東京発・伝統WA感動』実行委員会委員長

野村 萬

<能楽師(重要無形文化財保持者)・社団法人日本芸能実演家団体協議会 会長>

日本を代表する狂言の第一人者として、1997年、重要無形文化財個人指定(人間国宝)の名誉を受ける。本名、野村太良。故六世万蔵(人間国宝)の長男。1956年にパリ国際演劇祭に能楽団として参加したのを始めとし、狂言を海外に広く紹介しその普及に努めた。現在も多くの舞台で活躍する傍ら、後進の育成に努め、(社)日本芸能実演家団体協議会会長として、広く芸能文化の振興発展に尽力している。主な叙勲・受賞歴として、紫綬褒章、日本藝術院会員、文化功労者等多数。



●東京アートポイント計画／アートプログラム

『東京インプログレス』

川俣 正 <美術家>

1953年生まれ。パリ国立高等芸術学院教授。1977年より活動をはじめ、28歳の若さでヴェネツィア・ビエンナーレの参加アーティストに選ばれ、その後もドクメンタなどに参加し、欧米を中心に高い評価を獲得し続ける。また、「ワーク・イン・プログレス」というアートの文脈に収まらない独自の制作方法論を展開し、その活動領域は建築や都市計画、歴史学や社会学、日常のコミュニケーション、あるいは医療にまで及ぶ。



●フェスティバル事業／演劇分野

『フェスティバル/トーキョー』プログラム・ディレクター

相馬 千秋 <特定非営利活動法人アートネットワーク・ジャパン>



(c)鏡田伸幸

1975 年生まれ。98 年早稲田大学卒業後、リヨン第二大学院修了。2002 年より現在までアートネットワーク・ジャパン勤務。06 年「急な坂スタジオ」設立、現在代表理事。07 年-10 年早稲田大学演劇博物館グローバルCOE 客員講師。東京国際芸術祭 2008 プログラム・ディレクターを経て、フェスティバル/トーキョーのプログラム・ディレクターを務める。

<メッセージ>

F/T は私たちの“目の前にあるもの”と徹底的に向き合いながら、何かを紡ぎだしていく場だと思います。表現、と言ってしまうえば簡単ですが、ある現実と対峙し続け、その行為によって必然性のある方法を試行錯誤し、ひとつの作品なり行為として外に差し出す、ということは、とても骨の折れる作業です。このやたらと大変な作業を地道に積み重ねた複数の表現（者）が集まる場が F/T だとも言えます。そして F/T は、そこに集まるすべての人達と、その先にある希有な楽しさとか新しい発見を共有する場でもありたいと思っています。

●フェスティバル事業／美術・映像分野

『六本木アートナイト』実行委員会事務局長

武村 俊



企画制作会社勤務を経て、1989 年より森ビル流通システム(株)にてラフォーレミュージアムの自主催事企画制作、ホール運営業務に携わる。2004 年より森ビル(株)タウンマネジメント事業室兼務となり、六本木ヒルズにおいて六本木ヒルズアリーナを中心とした様々なイベント企画制作に関わる。

<メッセージ>

2 回目の開催となった『六本木アートナイト』は昨年以上の実績を残すことができた。夕方から深夜にかけて続々と増え続け嬉々として回遊する観客の様子を見ていると、「街をあげてのアートを機軸とした一夜限りの祝祭」は既に多くの人々に浸透している手ごたえを感じる。

●フェスティバル事業／美術・映像分野

『東京アートミーティング トランスフォーメーション』／

『Trans-Cool TOKYO Contemporary Japanese Art from MOT Collection』

長谷川 祐子

〈東京都現代美術館 事業企画課長〉



京都大学法学部卒業。東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。金沢 21 世紀美術館学芸課長（1999-2005）、芸術監督（2005-2006）を経て、2006 年 4 月より東京都現代美術館チーフキュレーター、多摩美術大学芸術学科特任教授。同大学芸術人類学研究所所員。

<メッセージ>

『東京アートミーティング』はいろいろなジャンルの表現や専門領域がアートを媒介として出会うという企画です。第 1 回の“トランスフォーメーション”は変容、変身をテーマに、人類学者とともにイメージ、想像力における人間の可能性を探究します。

●フェスティバル事業／美術・映像分野

『恵比寿映像祭』

笠原 美智子

〈東京都写真美術館 事業企画課長〉



1957 年生まれ。1989～2002 年まで東京都写真美術館学芸員。東京都現代美術館学芸員を経て(2002～2006 年) 2006 年より現職。主な展覧会として、第 51 回ヴェネチア・ビエンナーレ美術展日本館コミッショナーとして「石内都:マザーズ 2000-2005 未来の刻印」展を開催、「日本の新進作家 vol. 7 オン・ユア・ボディ」展（東京都写真美術館、2008 年）ほか。

<メッセージ>

恵比寿から世界に発信するアートと映像のフェスティバルです。映像を限定的に捉えず、多様化する映像表現と映像受容の在り方を、あらためて問いなおす場としています。東京都写真美術館を複合的に使いながら作品展示しており、質の高い世界に発する様々なアートの映像表現と出会うことでしょう。是非多くの方にお楽しみ頂きたいと思えます。

●キッズ事業／演劇分野

『パフォーマンスキッズ・トーキョー』

堤 康彦 <特定非営利活動法人芸術家と子どもたち 代表>



2000年、現代芸術家を小学校等へ派遣しワークショップ型授業を実践する活動＝エイジアスをスタート。03年「アサヒビール芸術賞」受賞。現在、東京都豊島区の廃校（にしすがも創造舎）を拠点に、学校教育と地域（まち）の2つのフィールドで子供に関わる事業を展開する。

<メッセージ>

ダンス・演劇・音楽分野の最先端で活躍する現代アーティストと、次代を担う子供たちとがぶつかり合って新しい表現が生まれる。子供の創造性・多様性・相互コミュニケーションを引き出すワークショップを重ねオリジナルの舞台作品を創作。子供が主役だが、子供だましではないホンモノのステージ。いまの都会の子供にこそ、リアルな身体を使ったアート表現を！

●キッズ事業／音楽分野

『ミュージック&リズム TOKYO KIDS』事務局長

北村 公宏 <特定非営利活動法人バンブーオーケストラ 理事長>



東京芸術大学音楽学部邦楽科卒業。同大学院音楽研究科修了。設立当初よりバンブーオーケストラの活動に参加。竹の持つ可能性、理想と夢を追いかけている。この活動を通し、多くの人に出会えたことに感謝！

<メッセージ>

竹を切り、削って自分だけの楽器を作る。そのとき垣間見せる子供達の純真な「まなざし」、喜びの「笑顔」は、いつも私に大きな勇気を与えてくれます。そして、その時生まれる音楽は、誰もまねのできない子供達のオリジナルになるのです。凄いなー子供のパワー。日本の未来もすてたもんじゃない！都庁前都民広場に、君の音を響かせよう。

●キッズ事業／音楽分野

『青少年のための舞台芸術体験プログラム』

松本 辰明 <東京文化会館 副館長>



1952年熊本県生まれ。大学卒業後、民間企業勤務を経て、1979年東京都庁入都。1990～1992年まで東京都パリ事務所勤務。2007年より東京文化会館副館長に就任。また、同年より社団法人全国公立文化施設協会常務理事を兼務。

<メッセージ>

当プログラムは、青少年が世界最高水準の芸術と出会い、体験できる機会を提供するものです。2年目の今年、おかげさまで申込者数、来場者数とも昨年度を上回るペースで進んでいます。参加者からは「また参加したい」「もっと増やして！」などの声が多数寄せられています。今年度も、英国ロイヤル・バレエ団、英国ロイヤル・オペラ、オーストラリア・バレエ団など、世界に名だたるカンパニーのプログラムが目白押しです。本物の芸術との出会いが、将来に向けた芸術文化の創造・発信につながることを願っています。

●キッズ事業／演劇分野

『TACT／FESTIVAL』

高萩 宏 <東京芸術劇場 副館長>



大学時代、劇団夢の遊眠社創立に参加。退団後、英国でのジャパン・フェスティバル 1991をはじめ、東京演劇フェア、東京国際芸術祭などの運営に携わる。パナソニック・グローブ座支配人、世田谷パブリックシアター制作部長を経て、現職。多摩美術大学客員教授。

<メッセージ>

「作り手と観客が同じ空間で同じ時間を過ごす」舞台芸術の特徴を活かした作品を選んで上演します。家族で楽しめる国際児童青少年フェスティバル（『TACT／FESTIVAL』）、国際発信力のある国内の若手演劇人の作品、タイと日本の若手劇団の共同制作、世界ツアー中のカナダのロベール・ルパージュの「ブルードラゴン」など、世界からそして世界へと国際的に活躍する演劇人の作品を集めました。

●東京アートポイント計画／アートプログラム・人材育成プログラム

『TERATOTERA(テラトテラ)』／『Tokyo Art Research Lab』

小川 希 <Art Center Ongoing 代表>



既存の価値にとらわれない文化の新しい試みを恒常的に実践し発信する場を目指して、東京・吉祥寺に芸術複合施設 Art Center Ongoing を設立。現在、同施設の代表を務める。また、JR 中央線高円寺から吉祥寺を舞台としたアートプロジェクト『TERATOTERA(テラトテラ)』のチーフディレクターとしても活躍する。

<メッセージ>

『TERATOTERA(テラトテラ)』では地域との邂逅を、『アートプロジェクトの0123(オイッチニーサン)』では未知なる才能との遭遇を。二つの試みが互いに絡み合いながら、まだ見ぬ東京の新しい次元へと上昇していくことを期待して。

●東京アートポイント計画／アートプログラム

『墨田区在住アトレウス家』(墨東まち見世 2010 参加企画)

長島 確 <ミクストメディア・プロダクト>



日本でまだ数少ないドラマトルクとして、コンセプトの立案から上演テキストの編集・構成まで、身体や声とともにあることばを幅広く扱う。ベケットやケイン、フォッセらの戯曲の翻訳のほか、さまざまな演出家や劇団の作品に参加。2010年2月には東京谷中の民家を使い「エレクトラ」を演出。

<メッセージ>

フィクションには、現実を忘れさせる力と、現実をよりはっきりと見えるようにする力があります。ギリシャ劇の人物たちが墨田区に暮らすというのは、もちろんフィクションです。でもこのありえない組み合わせによって、何が見えてくるでしょう。地域の方たちと一緒に進めるこのプロジェクトを、とても楽しみにしています。